

高校生における地域特性に応じたシビックプライドの醸成要因と将来の定住意識への影響

-山口県宇部市での調査と 3 地域の比較分析を通じて-

Factors Influencing Civic Pride and Residency Intentions in High School Students Based on Regional Characteristics

-Through a Survey in Ube City, Yamaguchi, and Comparative Analysis with Three Other Regions-

森 豪大*・宋 俊煥**・藪谷 祐介***

Godai Mori*, Junhwan Song **, Yusuke Yabutani ***

As a strategy to increase the U-turn population, fostering civic pride—defined as citizens' pride in their city—is considered crucial. This study aims to clarify how sources based on regional characteristics impact civic pride and future residency intentions. Surveys were conducted in Ube City, Yamaguchi, and compared with previous studies in Takaoka City and Himi City, Toyama. The results revealed that commonalities across these three regions include higher civic pride and future residency intentions among high school students who wish to find employment, the significant influence of 'place attachment' on future residency intentions, and the role of parks and public transportation in enhancing 'place attachment'. Additionally, it was found that taking pride in industries related to the origins of each city's region is important in enhancing civic pride.

Keywords: Place Attachment, U-turn, Industrial City, Takaoka City, Himi City, Covariance Structure Analysis

地域愛着, U ターン, 工業都市, 高岡市, 氷見市, 共分散構造分析

1. はじめに

1-1. 研究背景と目的

U ターン人口増加の方策の一つとして、高校生のシビックプライドを高めることが重要だとされている¹⁾。このシビックプライドは、都市に対する市民の誇りと定義され、自分自身が関わって地域をよくしていこうという、当事者意識に基づく自負心という意味を含んでおり、「参画」、「地域アイデンティティ」、「持続願望」、「愛着」の4側面から構成されている²⁾。既往研究¹⁾で指摘されているように、地域外に流出する前の高校生に対し、シビックプライドを醸成することで、将来の定住意識が高まると考えられる。

シビックプライドは、19世紀の英国ヴィクトリア朝時代に現れた概念で、産業化と共に都市が急速に発展し次々と建築物が作られ、都市の物理的環境が形成された中で、市民階級を次第に持つようになった自分達が都市を作っているという自負に基づくと言われている²⁾。本研究では、シビックプライドの醸成要因である都市の物理的環境を含む地域資源を既往研究³⁾に倣い、「源泉」と定義する。

高校生のシビックプライドと将来の定住意識を高める源泉として、歴史文化都市の富山県高岡市¹⁾では文化・産業や公園が、隣接する農漁村地域の富山県氷見市⁴⁾では魚・海や公園・交通が指摘された。また、2地域ではともに、公園がシビックプライドと将来の定住意識に影響を与えることが示された。しかし、歴史文化都市や農漁村地域以外の地域特性^(注1)を持つ地域においても同様の知見が得られるかは定かではない。したがって、本研究では、既往研究で調査されている2地域とは地域特性が異なる工業地域の山口県宇部市(図1)を対象に調査を行い、3地域間の比較分析を行うことで、地域特性に応じた高校生のシビックプラ

イドの源泉や将来の定住意識に与える影響を明らかにすることを目的とする。本研究結果は、人口減少が深刻化する日本の各地方が抱える人材不足という課題に対し、地方自治体や教育機関が、それぞれの地域特性に応じた若年層のシビックプライドと将来の定住意識を高めるための施策・教育プログラムの検討に有用な知見となり得ると考える。

1-2. 研究の位置づけ

シビックプライドと将来の定住意識に関する既往研究を整理し、本研究の位置づけと新規性を明確にする。シビックプライドに関して、まず、伊藤²⁾はシビックプライドの尺度を整理し、都市環境が市民の評価によってどのように形成されるかをアンケートと統計分析を用いて明らかにした。また、伊藤³⁾は、富山県富山市での調査を通じて、源泉が市民のシビックプライドにどのように影響を与えるかを

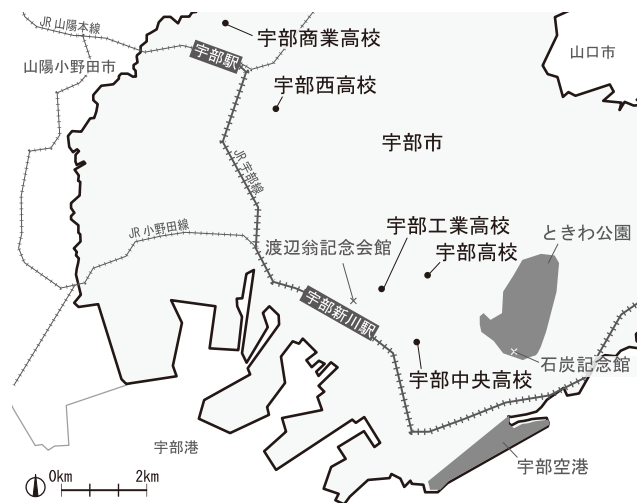


図1 宇部市の地図

* 学生会員 富山大学大学院人文社会芸術総合研究科 (University of Toyama)

** 正会員 山口大学大学院創成科学研究科 (Yamaguchi University)

***正会員 富山大学学術研究部芸術文化学系 (University of Toyama)

詳細に分析した。本研究は、伊藤³⁾のシビックプライド尺度や分析方法を参考に行った。次に、日高ら⁹⁾は中山間地域における住民のシビックプライドが地域参加を促進する重要な要素であることを、看護学の視点から示した。鈴木ら⁹⁾は地域愛着を形成する要因として風土の重要性を、引地ら⁷⁾は居住年数よりも地域社会への肯定的な認識が地域への愛着感情を強めることを指摘した。また、藪谷ら⁸⁾は、自治体による交流・観光振興や官民協働に関する政策への市民満足度がシビックプライドと関係があること指摘した。さらに、井形ら⁹⁾は、地域教育が子どもたちのシビックプライドの育成に有効であることを示した。特に、高岡市¹⁾と氷見市⁴⁾における研究では、高校生において源泉とシビックプライド、将来の定住意識の関係を明らかにした。

高校生の将来の定住意識に関しては、西村ら¹⁰⁾が都市への愛着が、青木ら¹¹⁾は自然環境の整備によって将来の定住意識が高まることを明らかにした。藪谷ら¹²⁾は地域愛着が高校生のUターン意識の形成に寄与することを示唆した。

既往研究では、成人や高校生を対象にシビックプライドの源泉や地域愛着の要因、さらには高校生の地域愛着と定住意識との関連を探ってきた。しかしながら、Uターン施策を考える際に重要である高校生を対象に、異なる地域特性を持つ複数の都市を対象としたシビックプライドと将来の定住意識との関係を横断的に分析した研究は見られない。この点において、本研究は新規性を有していると考える。

1-3. 調査対象地の地域特性

山口県宇部市、富山県高岡市、富山県氷見市の成り立ちや産業や文化などの地域特性を行政資料に基づいて整理した(図2)。宇部市¹³⁾¹⁴⁾は山口県の南西部に位置し、自然環境と先進的な産業が共存する地域である。江戸時代からの石炭産業の歴史を有し、現代では化学工業が中心である。また、「宇部方式」と呼ばれる環境保全への取り組みが国際的に評価されており、公害に見舞われたまちの活性化のために、彫刻を活用したまちづくりも進められている。高岡市¹⁵⁾は、富山県西部に位置し、北陸地方の交通の要所であり、城下町として栄えた。歴史的にも豊かな背景を持ち、自然景観も魅力の一つである。産業としては、伝統的な鋳物産業と共に、アルミやパルプなどの新しい工業が発展している。氷見市¹⁶⁾は、富山県北西部に位置し、「ひみ寒ぶり」がブランド化されており、古くから漁業が盛んな地域である。農業や木材生産も活発で、地域の食文化や伝統的な生活様式が今も色濃く残されている。

1-4. 研究方法と構成

研究の全体像と構成を図2に示す。本研究では、宇部市の高校生を対象とした調査を2回(①プレアンケート調査、②本アンケート調査)を行い、統計分析を用いて源泉とシビックプライド、将来の定住意識の関係を明らかにする。なお、地域間の比較を行うために、高岡市¹⁾と氷見市⁴⁾の既往研究と同様の方法でアンケート調査と統計分析を行った。その結果を基に、高岡市と氷見市との比較分析を行い、地域特性に応じた高校生のシビックプライドの源泉や将来の

定住意識への影響を明らかにする。

まず、宇部市の源泉を抽出するために、宇部市内の県立高校2校を対象に①プレアンケート調査を行った(2章)。次に、I.属性、II.源泉を誇りに思う度合い、III.シビックプライド尺度、IV.将来の定住意識について宇部市内の県立高校5校を対象に、②本アンケート調査を実施した(3章)。IIとIIIの結果を用いて、それぞれ因子分析を行い、源泉およびシビックプライドの構成要素を明らかにした。また、源泉およびシビックプライドの構成要素とIV.将来の定住意識を基に共分散構造分析を行い、源泉がシビックプライドに与える影響と、醸成されたシビックプライドが将来の定住意識に与える影響の一連の流れを明らかにした(4章)。その後、3地域の比較分析と考察を行い(5章)、最後に、まとめと本研究の課題を述べる(6章)。具体的な調査方法については各章で述べる。

2. 宇部市のシビックプライドの源泉

2-1. プレアンケート調査概要

本アンケート調査の前段階として、宇部市におけるシビックプライドの主要な源泉を抽出するためにプレアンケート調査を実施した(表1)。プレアンケート調査は、宇部高校、宇部商業高校の2校に通学する高校生(1年生から3年生)を対象とした。宇部高校は中心市街地に位置しているのに対し、宇部商業高校は中心市街地から約7km離れた、宇部市西部地域の代表的な交通結節点である宇部駅の近くに立地している(図1)。このように離れた2つの高校を調査することで、宇部市の広範囲に居住する高校生の様々な源泉を抽出できると考えた。

調査方法はWEBアンケートとし、アンケートを回答できるQRコードを印刷した調査票を配布し行った。調査項目は、①属性(性別・高校名など)、②将来の定住意識、③

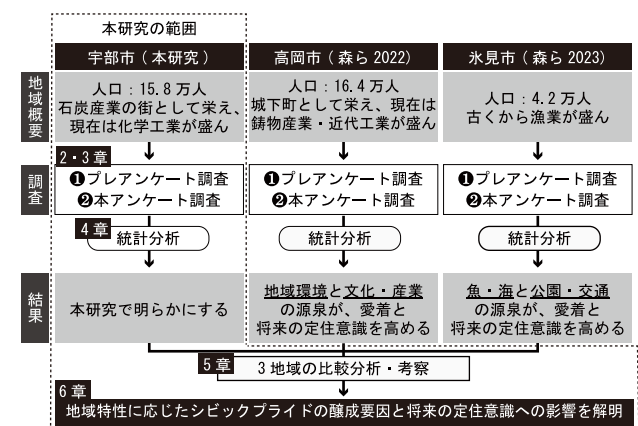


図2 研究の全体像と構成 (注2)

表1 プレアンケート調査概要

調査期間	2023年7月18日から2023年7月26日
調査対象	宇部市内の高校2校(宇部高校、宇部商業高校)
実施方法	回答QRコードを印刷した調査票を配布し、WEBアンケートで実施した。
回答数	回答数: 405件 宇部市の高校生の有効回答: 270件(有効回答率 66.7%)
調査項目	①属性(性別・高校名など)、②将来の定住意識、③誇りに思うもの

誇りに思うものである。③誇りに思うものは、源泉を把握するために尋ねるもので、既往研究³⁾に倣い、建築物、文化施設、公園・広場等のオープンスペース、場所・地区、交通機関、文化芸術、イベントや祭り、産業、スポーツ、自然、食、(特)産物、歴史遺産、有名人、その他を質問の要素として設定した。各要素について、「あなたが誇りに思う宇部市の(各要素名)を教えてください。(複数回答可)」と尋ね自由記述で回答を求めた。回答数は405件であった。そのうち、本研究の対象地域である宇部市に居住する高校生の有効回答は270件^(註3)(有効回答率66.7%)であった。

2-2. 源泉の抽出

プレアンケート調査の回答結果を、表2に示した。得られた回答結果から、シビックプライドの源泉となり得る地域資源を抽出する。まず、既往研究³⁾と同様に20個の地域資源を抽出することとし、各要素で回答数が最も多い10個の地域資源を抽出した(「渡辺翁記念会館」と「ときわ公園」、「かまぼこ」は複数の要素で最も回答が多かった)。さらに、合計で20個になるよう、閾値を24件以上の回答数に設定して地域資源を抽出した(表2の太字)。ただし、「かまぼこ」と「宇部かま」は同様の地域資源を指していると判断し、「宇部かま」に統合した。また、宇部興産株式会社は2022年にUBE株式会社へと社名を変更していることから、「宇部興産」と「UBE株式会社」は同一のものを指していると判断し、「UBE株式会社(宇部興産)」とした。

表2 宇部市の源泉の抽出結果

要素	抽出した代表的な源泉	抽出しなかった源泉
建築物	渡辺翁記念会館(45)*	彫刻(15)、ときわ公園(14)、フジグラン宇部(13)、宇部市役所(7)、宇部空港(7)
文化施設	渡辺翁記念会館(69)*	石炭記念館(20)、ときわ公園(19)、宇部市立図書館(8)、琴崎八幡宮(8)
公園・広場等のオープンスペース	ときわ公園(172)*	宇部空港の広場(8)
場所・地区	ときわ公園(21)*	宇部市(9)、厚南(8)
交通機関	電車(37)、バス(27)、宇部空港(25)	宇部線(14)、飛行機(12)、宇部市交通局(8)、宇部新川駅(8)
文化芸術	彫刻(119)	なし
イベントや祭り	宇部まつり(144)、新川市まつり(48)、宇部市花火大会(47)	なし
産業	宇部興産(59)、UBE株式会社(25)	工業(15)、セメント(12)、宇部かま(12)
スポーツ	野球(59)、サッカー(27)	バスケットボール(20)、バレーボール(13)、テニス(9)、陸上(8)
自然	ときわ公園(22)*	山(18)、木(9)
食	かまぼこ(41)*、瓦そば(29)、宇部かま(25)*	けんちょう(12)、ふぐ(12)、ラーメン(11)、宇部ラーメン(9)
(特)産物	かまぼこ(43)*、宇部かま(29)*、小野茶(24)	ふぐ(21)、赤間硯(9)
歴史遺産	石炭記念館(26)	渡辺翁記念会館(12)
有名人	やす子(58)、Ayase(51)、庵野秀明(35)、本庶佑(24)	安倍晋三(22)

Note: 括弧内は回答数である。なお、回答数が7件未満の回答は記載しない。また、*を付した源泉は同じものであるが、本研究は要素ごとに源泉を抽出しており、要素を跨ぎ統合を行っていないため、複数の記載がある。

3. 宇部市のシビックプライドの現状

3-1. 本アンケート調査概要

次に、各源泉を誇りに思う度合い、シビックプライド、将来の定住意識を問うため、本アンケート調査を行った(表3)。調査対象は宇部市内にある宇部高校、宇部商業高校、宇部工業高校、宇部西高校、宇部中央高校の5校に通学する高校生(1年生から3年生)とした。主な調査項目は、I.属性(性別、高校名など)、II.源泉を誇りに思う度合い、III.シビックプライド尺度、IV.将来の定住意識である。

WEBアンケートの回答QRコードを印刷した調査票を配布し、1120件の回答を得た。回答に対し、分析の精度を向上させるためにデータクリーニングを行った^(註4)。データクリーニングは、既往研究³⁾に倣い、a.アンケート回答時間が2分30秒以下のもの、b.全ての源泉を知らない^(註4)と回答したもの、c.シビックプライド尺度の設定間に対して全て同じ回答をしているもののいずれかに当てはまる回答を削除した。また、既往研究³⁾の結果と比較するため、宇部市に居住する高校1、2年生に対し分析を行う^(註5)。その結果、489件(全回答の43.7%)を分析対象とした。

II.源泉を誇りに思う度合いに関しては、プレアンケート調査で抽出した代表的な源泉(表2)を用い、「以下の要素それぞれについて、宇部市民として誇りに思う度合いを教えてください。ただし、要素を知らない場合は、「知らない」

表3 本アンケート調査概要

調査期間	2023年9月29日から2023年10月11日
調査対象	宇部市内の高校5校に在学する高校生(全学年)を対象とした。(宇部高校、宇部商業高校、宇部工業高校、宇部西高校、宇部中央高校)
実施方法	回答QRコードを印刷した調査票を配布し、WEBアンケートで実施した。
回答数	回答数:1120件 宇部市に居住する高校生の回答にデータクリーニングを実施し、489件を分析対象サンプルとした。
調査項目	I.属性(性別、高校名など)、II.源泉を誇りに思う度合い、III.シビックプライド尺度、IV.将来の定住意識

表4 宇部市の源泉の平均値と認知度

源泉名	平均値	認知度
1. Ayase (YOASOBI)	4.50	96.6%
2. 宇部空港	4.33	98.6%
3. 宇部市花火大会	4.33	97.9%
4. 瓦そば	4.32	98.2%
5. 宇部まつり	4.23	98.0%
6. ときわ公園	4.20	99.2%
7. やす子	4.19	95.4%
8. 新川市まつり	4.18	97.7%
9. UBE株式会社(宇部興産)	4.14	95.9%
10. 庵野秀明	4.12	77.3%
11. 彫刻	4.10	98.2%
12. 渡辺翁記念会館	4.09	95.0%
13. 小野茶	4.08	93.8%
14. 本庶佑	4.06	76.7%
15. かまぼこ(宇部かま)	4.05	97.5%
16. 石炭記念館	3.91	90.3%
17. 野球	3.56	86.9%
18. サッカー	3.52	87.7%
19. バス(宇部市交通局・船木鉄道バス)	3.37	96.3%
20. 電車(宇部線)	3.33	97.5%

Note: 源泉の平均値の高い順に記載した。

を選択してください。」と問い、6段階（誇りに思う・やや誇りに思う・どちらとも言えない・あまり誇りに思わない・誇りに思わない・知らない）で回答を得た。III.シビックプライド尺度は4指標、20項目で構成される伊藤³⁾が開発したものを用いた（表5）。各項目について、5件法（あてはまる・ややあてはまる・どちらとも言えない・あまりあてはまらない・あてはまらない）で回答を求めた。

3-2. 本アンケートの単純集計結果

本アンケート調査の結果を基に単純集計を行い、回答者のシビックプライドと、源泉を誇りに思う度合いの傾向と特徴を把握する。源泉を誇りに思う度合いの平均値と認知度の結果を表4に示した。認知度は、源泉を知らないと回答した者を除いた回答者の割合とした。

源泉を誇りに思う度合いの平均値が最も高かったのは、「1.Ayase (YOASOBI)」（4.50）であり、「2.宇部空港」（4.33）、「3.宇部市花火大会」（4.33）と続いた。対して、「20.電車（宇部線）」（3.33）、「19.バス（宇部市交通局・船木鉄道バス）」（3.37）や「18.サッカー」（3.52）、「17.野球」（3.56）、といった日常的に高校生が利用する公共交通機関や、スポーツに関する源泉の平均値が低い結果となった。源泉の認知度に着目すると、「6.とぎわ公園」が99.3%と最も知られており、「2.宇部空港」と「4.瓦そば」が98.2%の順で認知度が高く、4つの源泉を除いて9割以上の認知度であった^(註6)。

次に、シビックプライド尺度の平均値の結果を表5に示した。なお、宇部市の結果とともに、高岡市と氷見市の結果も加えているが、地域間の比較は5章で述べる。シビックプライド尺度の平均値は、「1.宇部市は住みやすいと思

表5 シビックプライド尺度の各市の平均値

指標	項目	宇部	高岡	氷見
地域愛着	1. Aは住みやすいと思う	4.53	4.28	3.92
	2. Aが好きだ	4.28	4.13	4.20
	3. Aの雰囲気や土地柄が気に入っている	4.13	4.07	3.98
	4. Aに自分の居場所はない（逆転項目）	4.39	4.30	4.37
	5. Aにずっと住み続けたい	3.35	3.29	3.15
	6. Aは大切だと思う	4.26	4.03	4.35
	7. Aにいつまでも変わって欲しくないものがある	3.67	3.63	3.97
	8. Aになくなってしまうと悲しいものがある	3.71	3.84	4.02
愛着 郷土的	9. Aは、他のほとんどの地域より良い場所である	3.62	3.40	3.26
	10. Aを批判している人がいたら、宇部市を擁護する	3.31	3.14	3.35
	11. 友人や家族にAの商品や製品を使うよう勧める	2.81	2.63	2.61
	12. Aのスポーツチームを積極的に応援する	3.17	2.98	3.56
地域 参画	13. 地域社会の一員としての責任を真剣に考えている	3.19	2.94	3.25
	14. 自分のような人間が地域社会で重要な役割を果たすと思う	3.00	2.77	2.84
	15. 地域社会を良い場所にするための自分なりの貢献ができています	3.11	2.70	2.72
	16. 自分は地域社会に変化を起こすことができると思う	2.79	2.49	2.52
地域 アイデン ティティ	17. 人生の大部分がAに結びついている	3.39	3.20	3.30
	18. 「Aの人」という言葉は、自分がどういう人物かをよく説明する言葉である	2.87	2.62	3.06
	19. A市民であることは自分にとって重要なことである	3.36	3.10	3.51
	20. Aは自分にとって特別な場所である	3.86	3.82	4.12

Note: Aには各地域の市町村が入った形でアンケート調査を実施している。逆転項目の項目は逆転処理をして、平均値の算出を行った。

う」が4.53で最も高く、「4.宇部市に自分の居場所はない（逆転項目）^(註7)」が4.39と続いた。全体的に地域愛着の指標に関する質問項目の平均値が高い傾向にあることが分かる。既往研究で得られた高岡市¹⁾、氷見市⁴⁾の結果と比較すると宇部市は20項目中の10項目で最も高く、特に「1.宇部市は住みやすいと思う」「15.地域社会を良い場所にするための自分なりの貢献ができています」といった項目が他と比べて高い。

4. 源泉とシビックプライド、将来の定住意識の関係

4-1. 源泉とシビックプライドの構成要素の抽出

4-1-1. 分析の概要

宇部市の源泉とシビックプライドの構成要素を抽出するために、因子分析を行う。ただし、源泉に関する設問では、

表6 宇部市の源泉の構成要素

源泉名	産業文化	祭り	公共交通	有名人
16. 石炭記念館	0.96	-0.18	0.05	0.00
6. とぎわ公園	0.93	0.04	0.04	-0.22
11. 彫刻	0.88	0.04	-0.13	-0.01
12. 渡辺翁記念会館	0.87	0.05	-0.03	-0.07
9. UBE株式会社（宇部興産）	0.71	0.10	-0.03	0.10
15. かまぼこ（宇部かま）	0.69	0.06	0.10	0.04
4. 瓦そば	0.51	0.21	-0.02	0.10
7. やす子	0.50	0.04	-0.03	0.19
2. 宇部空港	0.47	0.31	0.08	-0.05
1. Ayase (YOASOBI)	0.42	0.04	-0.16	0.38
5. 宇部まつり	-0.04	0.99	0.05	-0.01
8. 新川まつり	-0.03	0.91	0.09	0.02
3. 宇部市花火大会	0.24	0.75	-0.01	-0.06
19. バス（宇部市交通局・船木鉄道バス）	-0.13	0.09	1.02	-0.06
20. 電車（宇部線）	-0.08	0.07	0.90	0.02
18. サッカー	0.38	-0.10	0.41	0.07
17. 野球	0.31	-0.03	0.38	0.09
10. 庵野秀明	-0.15	0.03	-0.01	0.94
14. 本庶佑	-0.03	-0.11	0.07	0.94
13. 小野茶	0.29	0.17	0.03	0.42

表7 宇部市のシビックプライドの構成要素

項目	参画	愛着	アイデンティティ	持続願望
14. 自分のような人間が地域社会で重要な役割を果たすと思う	0.93	0.08	-0.16	-0.07
16. 自分は地域社会に変化を起こすことができると思う	0.91	-0.05	-0.08	-0.03
15. 地域社会を良い場所にするための自分なりの貢献ができています	0.81	0.01	0.04	-0.01
13. 地域社会の一員としての責任を真剣に考えている	0.66	0.09	0.06	0.03
11. 家族や友人に宇部市の産品や製品を使うよう勧める	0.54	0.00	0.16	0.08
2. 宇部市が好きだ	-0.01	0.91	-0.02	-0.03
3. 宇部市の雰囲気や土地柄が気に入っている	0.07	0.85	-0.08	-0.02
1. 宇部市は住みやすいと思う	-0.01	0.74	-0.02	-0.07
6. 宇部市は大切だと思う	-0.06	0.53	0.16	0.16
5. 宇部市にずっと住み続けたい	0.08	0.44	0.06	0.07
19. 宇部市の市民であることは自分にとって重要なことである	0.09	-0.03	0.92	-0.09
20. 宇部市は自分にとって特別な場所である	-0.12	0.30	0.65	-0.05
18. 「宇部市の人」という言葉は、自分がどういう人物かをよく説明する言葉である	0.40	-0.17	0.52	0.00
17. 人生の大部分が宇部市に結びついている	0.20	0.08	0.44	0.08
7. 宇部市にいつまでも変わって欲しくないものがある	0.05	0.03	-0.09	0.87
8. 宇部市になくなってしまうと悲しいものがある	-0.06	0.00	-0.03	0.84

「知らない」の回答は、誇りに思う度合いと同じ尺度で点数化することは適切でないと考えられる。そこで、シビックプライドの源泉を因子分析の際には、「知らない」の回答は欠損値として扱い、リストワイズ処理（欠損が1つでもある回答を削除する）をして欠損がない状態で分析する。

4-1-2. 源泉の構成要素の抽出

シビックプライドの源泉となる因子を抽出するために、宇部市に居住する高校1、2年計489人の源泉の各項目への回答を用いて、因子分析（最尤法・プロマックス回転）を行った。分析の結果、4因子を抽出した（表6）。

第1因子は、「16.石炭記念館」や「6.ときわ公園」の因子負荷量が高かったため、「文化・産業」因子と命名した。第2因子は、「5.宇部まつり」や「8.新川市まつり」の因子負荷量が高かったため、「祭り」因子と命名した。第3因子は、「19.バス（宇部市交通局・船木鉄道バス）」や「20.電車（宇部線）」の因子負荷量が高かったため、「公共交通」因子と命名した。第4因子は、「10.庵野秀明」や「14.本庶佑」の因子負荷量が高かったため、「有名人」と命名した。

4-1-3. シビックプライドの構成要素の抽出

シビックプライドの構成要素を抽出するために、宇部市に居住する高校1、2年生計489人のシビックプライド尺度の回答を用いて、因子分析（最尤法・プロマックス回転）を行った。その結果、4因子を抽出した（表7）。分析の過程で、因子負荷量が0.35以下と低い値だった項目を削除した。なお、削除した項目は、「4.宇部市に自分の居場所はない」「9.宇部市は、他のほとんどの地域より良い場所である」「10.宇部市を批判している人がいたら、宇部市を擁護する」

「12.宇部市のスポーツチームを積極的に応援する」の4項目である。既往研究⁴⁾と近い結果となっており、それに倣って第1因子を「参画」、第2因子を「愛着」、第3因子を「アイデンティティ」、第4因子を「持続願望」と命名した。

4-2. 宇部市の源泉とシビックプライド、将来の定住意識

4-2-1. 共分散構造分析の概要

源泉がシビックプライドの形成に与える影響と、シビックプライドが定住意識に与える影響を明らかにするために、因子分析の結果と定住意識の回答を用いて共分散構造分析を行う。共分散構造分析を行う前段階として、仮説モデルを設定した（図3）。既往研究³⁾に倣い、シビックプライドの源泉がシビックプライドに影響を与え、シビックプライドが定住意識に影響すると考えた。また、シビックプライドの構成要素間は、同様に既往研究³⁾に倣い、「愛着」から他のシビックプライドに影響を与えると仮定した。

4-2-2. 宇部市の源泉とシビックプライド、将来の定住意識

宇部市の源泉とシビックプライド、将来の定住意識の関係を明らかにするために、前項で設定した仮説モデルを基に、共分散構造分析を行った。その結果を図4に示す。図中にある数字は標準化されたパス係数で、関係の強さを意味する。本研究で得られたモデルは適合度の基準^(註8)を満たさない値であったが、既往研究³⁾に倣い、変数間で有意なパスを引けていることから各構成要素の関係性を大筋捉えていると判断した。また、四角で囲われているのが観測変数、楕円で囲われているのが潜在変数を表す。左段に並ぶのが源泉の因子、中央左段に並ぶのがシビックプライドの構成要素、右段に並ぶのが将来の定住意識である。なお、

表8-3 地域の比較結果

項目	比較結果		項目	比較結果	
	宇部市 (4.03) > 水見市 (4.00) > 高岡市 (3.96)	水見市 (3.19) > 宇部市 (3.19) > 高岡市 (3.04)		水見市 (3.50) > 宇部市 (3.35) > 高岡市 (3.20)	宇部市 (3.31) > 水見市 (3.30) > 高岡市 (3.17)
単純集計	地域愛着の平均値	宇部市 (4.03) > 水見市 (4.00) > 高岡市 (3.96)	地域アイデンティティの平均値	水見市 (3.50) > 宇部市 (3.35) > 高岡市 (3.20)	
平均値の比較分析 (多重比較)	忠誠的愛郷心の平均値	水見市 (3.19) > 宇部市 (3.19) > 高岡市 (3.04)	シビックプライドの全体平均値	宇部市 (3.31) > 水見市 (3.30) > 高岡市 (3.17)	
	地域参画の平均値	宇部市 (2.91) > 水見市 (2.83) > 高岡市 (2.73)	将来の定住意識	高岡市 (3.54) > 宇部市 (3.39) > 水見市 (3.37)	
	各市の各属性との比較	全体	宇部市	高岡市	水見市
	性別とシビックプライド	男性 (3.32) > 女性 (3.18)	男性 (3.39) > 女性 (3.24)	男性 (3.25) > 女性 (3.08)	男性 (3.37) > 女性 (3.25)
	学年とシビックプライド	2年生 (3.27) > 1年生 (3.23)	2年生 (3.32) > 1年生 (3.31)	2年生 (3.22) > 1年生 (3.13)	1年生 (3.32) > 2年生 (3.27)
	進路とシビックプライド	就職 (3.34) > 進学 (3.24) > 未定 (3.07)	就職 (3.41) > 進学 (3.30) > 未定 (3.10)	就職 (3.26) > 進学 (3.16) > 未定 (3.06)	進学 (3.33) > 就職 (3.28) > 未定 (2.95)
	学校種別とシビックプライド	非進学校 (3.31) > 進学校 (3.18)	非進学校 (3.34) > 進学校 (3.27)	非進学校 (3.26) > 進学校 (3.08)	非進学校 (3.38) > 進学校 (3.27)
	性別と将来の定住意識	男性 (3.49) > 女性 (3.45)	女性 (3.42) > 男性 (3.41)	男性 (3.56) > 女性 (3.53)	男性 (3.49) > 女性 (3.29)
	学年と将来の定住意識	1年生 (3.46) > 2年生 (3.45)	1年生 (3.45) > 2年生 (3.30)	2年生 (3.56) > 1年生 (3.53)	2年生 (3.49) > 1年生 (3.28)
	進路と将来の定住意識	就職 (3.78) > 未定 (3.49) > 進学 (3.32)	就職 (3.75) > 未定 (3.43) > 進学 (3.15)	就職 (3.88) > 未定 (3.54) > 進学 (3.45)	就職 (3.61) > 未定 (3.60) > 進学 (3.30)
学校種別と将来の定住意識	非進学校 (3.60) > 進学校 (3.31)	非進学校 (3.55) > 進学校 (3.18)	非進学校 (3.63) > 進学校 (3.44)	非進学校 (3.61) > 進学校 (3.27)	
多重比較	シビックプライド	男性、就職希望者、非進学校在学者ほど高い	忠誠的愛郷心、地域参画が高い 就職希望者ほど高い	シビックプライド全体が低い 男性や非進学校在学者ほど高い	地域アイデンティティが高い
結果のまとめ	将来の定住意識	就職希望者、非進学校在学者ほど高い	就職希望者、非進学校在学者ほど高い	就職希望者、非進学校在学者ほど高い	統計的な差は見られなかった
	※源泉とシビックプライドの共通関係 (図3.4, 5)	愛着に対し、文化・産業が正の影響、有名人が負の影響	愛着に対し、文化・産業が正の影響、有名人が負の影響	愛着に対し、地域環境と文化・産業が正の影響	魚・海、公園・交通が愛着に正の影響
総合考察	各地域の相違点	・コミュニティスクールにより地域活動が多く、地域参画意識が高い ・産業や文化の源泉が愛着を高める	・コミュニティスクールにより地域活動が多く、地域参画意識が高い ・産業や文化の源泉が愛着を高める	・文化産業などが愛着を高める	・人口が少なく、近所づきあいが多いため地域アイデンティティが高い ・魚や海の源泉が愛着を高める
	共通点	・愛着の醸成により、将来の定住意識は高まる ・公園の整備や公共交通機関の利用促進が愛着や将来の定住意識を高める上で重要 ・キャリアを考える機会の提供により愛着や将来の定住意識を高める可能性			

多重比較法：Steel-Dwass 近似法 有意水準 p<0.05* p<0.001** ※図4.5, 6の各市の共分散構造分析の結果を用いた

誤差変数および潜在変数を構成する観測変数は省略した。

以下、本項において括弧内は標準化されたパス係数を示す。源泉とシビックプライドの関係に着目すると、「文化・産業」から「愛着」(0.570)と「アイデンティティ」(0.213)に、「公共交通」から「参画」(0.263)と「愛着」(0.145)、「アイデンティティ」(0.163)、「有名人」から「参画」(0.106)と「愛着」(-0.155)に関係が見られた。なお、「祭り」からは有意なパスが引けなかった。宇部市では、「文化・産業」が「愛着」に最も強い影響があることが明らかになった。また、「有名人」から「愛着」に負の影響が確認された。

シビックプライドの構成要素間の関係については、「愛着」から「参画」(0.341)、「アイデンティティ」(0.523)、「持続願望」(0.647)に関係が見られ、「愛着」から「将来の定住意識」(0.528)に関係が見られた。以上のことから、宇部市に居住する高校生は、「文化・産業」と「公共交通」が「愛着」に正の影響、「有名人」が「愛着」に負の影響を与え、将来の定住意識を高めるという一連の流れが確認できた。また、「愛着」が「参画」、「アイデンティティ」、「持続願望」を高めることが明らかになった。

5.3 地域の比較

5-1. シビックプライドと将来の定住意識の比較

山口県宇部市、高岡市、氷見市の3地域の属性とシビックプライドおよび将来の定住意識の関係を明らかにするために、平均値の比較である多重比較(表8上部)を行った。属性との比較は、地域特性に関わらず、シビックプライドや将来の定住意識に関係がある要素を明らかにすることができると考えた。なお、多重比較は、Steel-Dwass法(近似法)を用いて行った。Steel-Dwass法は3群以上の平均値を比較(多重比較)する際に使われ、正規分布に従わない場合に用いるノンパラメトリック検定の一種である。表8に付している記号(*)は有意水準を示している。なお、多重比較はサンプル数が少ないほど有意差が見られなくなる(p値が高くなる)傾向にある。各市のサンプル数は宇部市:489件、高岡市:381件、氷見市:187件であり、氷見市は他地域に比べサンプル数が少ないため、有意差がある項目が少ないことに留意する必要がある。また、高校によるシビックプライドと将来の定住意識の違いを明らかにするために、各校を進学校、非進学校に分類した。分類基準は、既往研究¹⁷⁾を参考に、進学率が80%以上の高校を進学校、80%未満の高校を非進学校とした。その結果、進学校は宇部高校、宇部中央高校、高岡高校、高岡南高校、氷見高校、福岡高校、非進学校は宇部工業高校、宇部商業高校、宇部西高校、高岡商業高校、高岡工芸高校に分類した。

まず、各市のシビックプライドの比較結果に着目する。なお、表8に記載している、地域愛着、忠誠的愛郷心、地域参画、地域アイデンティティは、伊藤³⁾が設定した各側面の平均値(表5)を算出しており、因子分析の構成要素(表7)とは異なる。シビックプライドの3地域の比較では基本的に宇部市と氷見市の間に大きな差は見られなく、

高岡市は2地域に比べ統計的に低いことが明らかになった。シビックプライドの各指標に着目すると、宇部市では特に

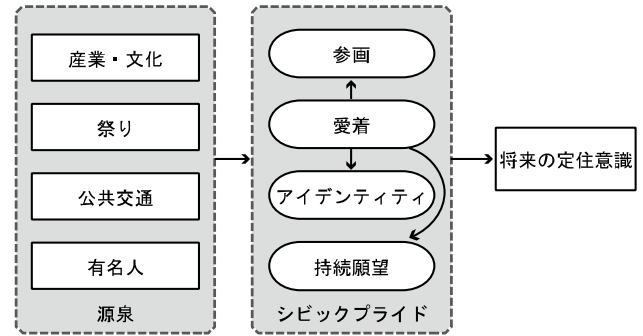


図3 仮説モデル

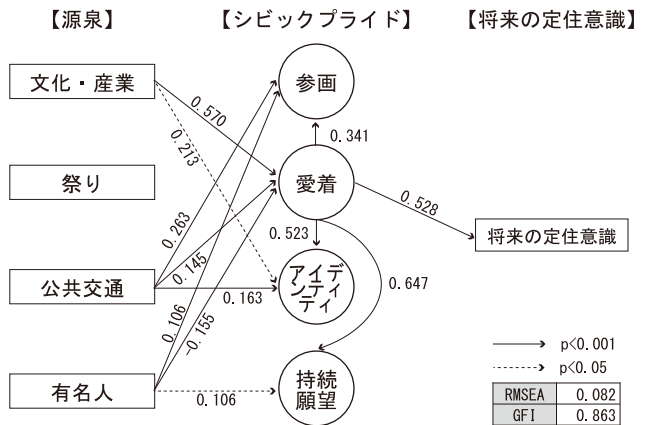


図4 宇部市の共分散構造分析の結果

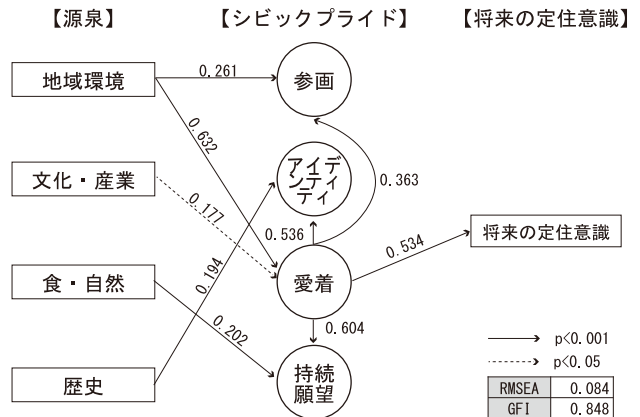


図5 高岡市の共分散構造分析の結果¹⁾

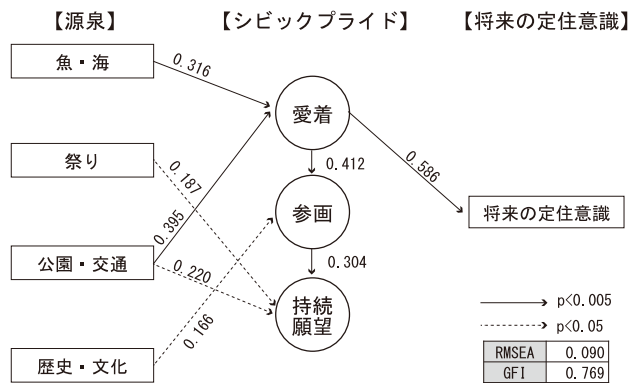


図6 氷見市の共分散構造分析の結果⁴⁾

地域参画の指標が高く、氷見市では地域アイデンティティの指標が高いことが明らかになった。

また、属性との比較結果をみると、シビックプライドは男性や、就職を希望者、非進学校在学者ほど高いことが明らかになった。また、将来の定住意識は、シビックプライドと同様に就職希望者、非進学校在学者ほど高いことが明らかになった。なお、将来の定住意識は3地域で統計的な差は見られなかった。

5-2. 源泉とシビックプライド、将来の定住意識の関係比較

本研究で調査した宇部市と、既往研究で明らかにされた高岡市¹⁾、氷見市⁴⁾の計3地域の分析結果を比較し総合的に考察を行い、地域特性に応じた高校生のシビックプライドの源泉や将来の定住意識に与える影響を明らかにする(表8)。まず、共分散構造分析の結果から、3地域ともに将来の定住意識の形成には、シビックプライドの構成要素の地域への「愛着」が重要であることが明らかになった(図4、5、6、表8下部)。したがって、地域特性に関わらず、「愛着」が将来の定住意識を高めることが明らかになった。さらに、3地域共に「愛着」が他のシビックプライドの構成要素である「参画」、「アイデンティティ」、「持続願望」を高めることから、「愛着」がシビックプライド醸成の基盤であることが明らかになった。

次に、各地域の源泉とシビックプライドの「愛着」の関係に着目する。宇部市は、産業・文化(石炭記念館、ときわ公園、彫刻、渡辺翁記念会館、UBE株式会社(宇部興産)など)が最も影響が大きく、次に公共交通(バス(宇部市交通局・船木鉄道バス)、電車(宇部線)など)が影響を与える。対して、有名人(庵野秀明、本庶佑)が負の影響を与える。高岡市は、地域環境(高岡おとぎの森公園、二上山、高岡・戸出七夕祭り、高岡古城公園、登坂絵莉など)が最も影響が大きく、次に文化・産業(高岡銅器、鋳物、金屋町など)が影響を与える¹⁾。氷見市は、公園・交通(比見乃江公園、朝日山公園、氷見線など)が最も影響が大きく、次に魚・海(魚、寒ブリ、漁業など)が影響を与える⁴⁾。したがって、宇部市は、石炭記念館や彫刻、UBE株式会社などの産業や文化、高岡市であれば、高岡銅器や鋳物などの伝統産業、氷見であれば魚や寒ブリなどの漁業が「愛着」を高める上で重要である。これらより、「愛着」を高めるためには、地域特性の中でも各地域の成り立ち(1-3参照)に関連する産業の源泉が重要であることが明らかになった。さらに、各地域ともに公園や公共交通機関が「愛着」に影響を与えていることが明らかになった。

5-3. 3地域の比較考察

これまでの分析結果を基に3地域のシビックプライドと将来の定住意識について考察する(表8下部)。平均値の比較および多重比較の結果から、宇部市と氷見市は高岡市に比べシビックプライドが高いことを明らかにした。特に、宇部市では、地域への参画意識が他地域に比べ高い(表8)。表5の地域参画の指標を構成する項目に着目すると、宇部市は「15.地域社会を良い場所にするための自分なりの貢献

ができてい」が他地域に比べて平均値が高い。宇部市では、市内の小中高校にコミュニティスクールが導入されている。コミュニティスクールとは、文部科学省が2005年から始めた制度であり、学校と地域住民等が協働し学校の運営を行い、地域と共に学校を作る仕組みである¹⁸⁾。山口県では、2021年度時点で、全国で唯一、市内の小中高校全校にコミュニティスクールが導入されている。また、小中学校においては2014年から全校に導入されるなど、全国に先駆けてコミュニティスクールの運営が行われている。このコミュニティスクールでは、地域の清掃活動やお祭りへの参加といった地域での参画機会が多く生徒に提供されている。これらより、宇部市の高校生は、小学生の頃から現在に至るまで地域と関わる機会が多くあり、地域への貢献意識が高いことが考えられる。そのことが他地域よりも地域への参画意識が高い要因だと推察される。

また、氷見市は、高岡市に比べ地域アイデンティティが高い(表8)。図6の共分散構造分析の結果に着目すると氷見市は地域アイデンティティの項目がシビックプライドの構成要素に現れなかった。氷見市⁴⁾では「氷見市民であることは自分にとって重要なことである」といった宇部市や高岡市¹⁾でアイデンティティ因子に含まれていた項目が「愛着」因子に包含された結果となった。したがって、氷見市の共分散構造分析結果における「愛着」に着目すると、公園・交通の源泉が最も強い影響を与えるため、公園や交通が地域アイデンティティを高める要因であると考えられる(図6)。地域アイデンティティとは、地域の人とのつながりによって生まれるもので、他の地域と区別される独自の文化や景観といったその地域らしさを生み出す原動力だとされている¹⁹⁾。氷見市唯一の高校である氷見高校には、富山湾を一望できる朝日山公園が隣接しており、氷見市の高校生はその地域らしさを感じる機会が多いと考えられる。このように、氷見市の高校生の多くは、氷見市らしい景観を日常的に目にすることができる公園が身近にあることにより、地域アイデンティティが高いことが考えられる。

また、就職を希望する高校生はシビックプライドと将来の定住意識が高く、将来の進路が決まっていない高校生はシビックプライドと将来の定住意識は低いことを明らかにした。したがって、キャリア教育など将来を考える機会を提供することが、シビックプライドや将来の定住意識の形成に寄与すると考えられる。

さらに、共分散構造分析の結果から、各地域ともに公園や公共交通機関が「愛着」に影響を与えていることが明らかになった(図4、5、6、表8下部)。具体的には、宇部市であればときわ公園やバス・電車、高岡市であれば高岡おとぎの森公園、氷見市であれば比見乃江公園や朝日山公園やJR氷見線といった公園や公共交通機関である。地方部の公共交通機関は高校生が通学に利用することが多く、高校生特有の源泉の可能性も考えられる。齊藤ら²⁰⁾は、高校生は公園や公共交通を利用するほど居住意向が高いことを指摘していることから、将来の定住意識やシビックプラ

イドを高める上で公園の整備や、公共交通機関の利用促進が重要であることが明らかになった。

6. まとめ

3 地域間の比較を行うことで、地域特性に応じた高校生のシビックプライドの源泉や将来の定住意識に与える影響を明らかにした。まず、アンケート調査から、宇部市の高校生が誇りに思う源泉は、「産業・文化」、「祭り」、「公共交通」、「有名人」であることを明らかにした。また、シビックプライドの構成要素は、「参画」、「愛着」、「アイデンティティ」、「持続願望」であることを明らかにした。

次に、宇部市、高岡市¹⁾、氷見市²⁾の3地域の比較を行った。地域特性に関わらず、3地域で共通する点として、就職を希望する高校生ほどシビックプライドと将来の定住意識が高いこと、「愛着」が将来の定住意識に影響を与えること、公園や公共交通機関が「愛着」を高めることが明らかになった。また、地域特性の中でも各市の地域の成り立ちに関わる産業を誇りに思うことがシビックプライドを高める上で重要であることを明らかにした。

本研究は、3地域の比較を通じて、シビックプライド醸成に影響を及ぼす地域特性を明らかにできた点において意義がある。今後、異なる地域特性を有する他地域での調査分析をさらに行い、地域特性に応じたシビックプライドと将来の定住意識の関係をより一般化する必要がある。また、具体的に高校生のシビックプライドを高めるための方策の検討が必要だと考えられ、これらを今後の課題としたい。

謝辞

本研究の調査にあたり、宇部高校、宇部商業高校、宇部工業高校、宇部西高校、宇部中央高校にご協力いただきました。心から感謝いたします。また、本研究は一般財団法人第一生命財団、および公益財団法人大林財団による研究助成を受けたものです。

【補注】

- (1) 人口規模や気候、地理、歴史、文化、産業などの地域の特徴を地域特性と定義する。
- (2) 各市の人口は、2024年3月1日時点での住民基本台帳人口である。
- (3) 宇部市以外の回答としては、山陽小野田市が75件、山口が19件、下関市が13件、周南市が8件、防府市が8件、そのほかに岩国市が6件、美弥市が5件、北九州が1件であった。
- (4) データクリーニングによって261件を削除した。
- (5) 宇部市外に居住する高校生193件と宇部市の3年生177件を削除し、489件を分析対象サンプルとした。
- (6) 認知度が9割を下回る源泉は、「10.庵野秀明」、「14.本庶佑」、「17.野球」、「18.サッカー」の4項目である。
- (7) 逆転項目は、逆転処理(回答の5を1に、4を1に、2を4に、1を5に変換すること)を行っている。
- (8) 適合度は、一般的にRMSEAは0.05以下、GFIが0.90以上であれば適合すると判断される21)。

【参考文献】

- 1) 森豪大, 藪谷祐介, 宋俊煥 (2022), 高校生のシビックプライドの醸成要因と将来の定住意識に与える影響 - 富山県高岡市に居住する高校生を対象として. 都市計画論文集, Vol.57, No.3, pp.933-940.

- 2) 伊藤香織 (2017), 都市環境はいかにシビックプライドを高めるか - 今治市を事例とした実証分析 -, 都市計画論文集, Vol.52, No.3, pp.1268-1275
- 3) 伊藤香織 (2019), シビックプライドの源泉としての都市環境及び諸要素 - 富山市中心市街地と富山地域を事例として -, 都市計画論文集, Vol.54, No.3, pp.615-622
- 4) 森豪大, 藪谷祐介, 宋俊煥 (2023), 農漁村地域における高校生のシビックプライドの醸成要因と将来の定住意識に与える影響 - 富山県氷見市に居住する高校生を対象として. 日本都市計画学会中部支部研究発表会論文集, Vol.34, pp.7-12.
- 5) 日高未希恵, 今井秀樹 (2021), 中山間地域に暮らす人々の Civic Pride に関連する要因 - 地域の文化的価値観に着目した看護への示唆, 日本看護学会誌, Vol.41, pp.806-814
- 6) 鈴木春菜, 藤井聡 (2008), 「地域風土」への移動途上接触が「愛着」に及ぼす影響に関する研究, 土木学会論文集 D, Vol.64, No.2, pp.179-189
- 7) 引地博之, 青木俊明 (2005), 地域に対する愛着形成の心理過程の検討, 景観・デザイン研究講演集, No.1, pp.232-235
- 8) 藪谷祐介, 阿久井康平 (2022), 地方自治体の都市政策への市民満足度がシビックプライドに与える影響 - 富山県小矢部市を事例として -, 都市計画論文集, Vol.57, No.3, pp.1156-1163
- 9) 井形康太郎, 田中尚人 (2019), 地域学習における児童のシビックプライド形成に関する研究, 土木学会論文集, Vol.75, No.5, I_181-I_189
- 10) 西村健, 南條隆彦 (2017), 若者から見た地域への愛郷心・愛着と帰巢性の関係, 島田市の高校生アンケート調査等から見た地方創生の可能性, 公共コミュニケーション研究, Vol.2, No.1, pp.38-43
- 11) 青木秀幸, 鎌田元弘, 宮澤哲蔵 (1999), 中山間地域における高校生の生きがい指標と定住意向からみた生活環境評価 - 農村部における若者の生活実態と農村環境の志向に関する研究 その1 -, 日本建築学会計画系論文集, Vol.524, pp.177-184
- 12) 藪谷祐介, 阿久井康平 (2021), 高校生の通学時における地域接触が愛着形成に与える影響 - 富山県小矢部市内の高校に通学する高校生を対象として -, 都市計画論文集, Vol. 56, No.3, pp.772-779
- 13) 宇部市 (2022), 第五次宇部市総合計画 基本構想, <https://www.city.ube.yamaguchi.jp/shisei/keikaku/1015261/1012517/1015731.html>, 最終閲覧 2024.3
- 14) 宇部市 (2010), 第四次宇部市総合計画 基本構想, <https://www.city.ube.yamaguchi.jp/shisei/keikaku/1015261/sougou/1006935/index.html>, 最終閲覧 2024.3
- 15) 高岡市 (2018), 高岡市都市計画マスタープラン https://www.city.takaoka.toyama.jp/toshi/sangyo/toshi/guide/line/documents/sstoshimp_zentai.pdf, 最終閲覧 2024.3
- 16) 氷見市 (2022), 第9次氷見市総合計画 <https://www.city.himi.toyama.jp/gyosei/soshiki/sosei/1/2/7986.html>, 最終閲覧 2024.3
- 17) 藤原和政, 河村茂雄 (2019), 高校生におけるソーシャルスキルと学校生活満足度との関連 - 学校の特性の視点から -, カウンセリング研究, Vol.51, No.3, pp.157-167.
- 18) 宇部市, 宇部市のコミュニティスクール, https://www.city.ube.yamaguchi.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/003/780/syokan.pdf, 最終閲覧 2024.4
- 19) 鄭錫榮, 松島格也, 小林潔司 (2012), アイデンティティと過疎中山間地域におけるおつきあい行動 - 日南町を事例に -, 土木学会論文集 D3 (土木計画学), Vol.68, No.5, pp.1_499-1_511
- 20) 齊藤充弘, 佐藤俊真 (2022), 中高生のまちに対する意識と日常生活行動にみる地方都市のまちづくり課題について - 広域多核都市・福島県いわき市を対象として. 都市計画報告集, Vol.21, No.2, pp.197-203
- 21) 朝野熙彦, 鈴木督久, 小島隆矢 (2005), 入門 共分散構造分析の実際, 講談社